

第4次5ヶ年中期計画 広域特化事業

理念	「地域に生きる」
テーマ	更なる成長と創造、地域を耕す(地域貢献)
ビジョン	①生涯にわたる地域での暮らしの実現 ②人権を守る砦となる ③働く人のチャレンジと成長を支える組織 ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人 ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(タイムスケジュール)

項目	29年度	30年度	31年度～33年度	担当部署	
① 生涯にわたる地域での暮らしの実現	高校卒業後の本人相談支援と福祉・医療への移行システムの構築			児童発達支援部	
	az委託事業の終了(29年度)手続きと次期委託に向けて大阪市と協議/will・Link(協議)→事業の遂行 an委託事業の終了(30年度)に向けて、定員の見直し(80名→40名もしくは60名)を大阪市と協議→事業の遂行			児童発達支援部	
	an・PASSO(十三地区)を同じ建物内で機能を一体化			児童発達支援部	
	コンサルテーション機能の更なる強化 アクトおおさかの長年の間接支援の蓄積を大切に…今後も委託事業を通した大阪府及び府下市町村との連携を継続していく 各地域が抱える対応困難ケースについて共有していく・実績を積み上げる			アクトおおさか	
	発達障がい者地域支援マネージャー事業 (地域自立支援協議会での啓発)			H28～H32までの5ヶ年予定事業 ※予算は単年度	アクトおおさか
	就労継続支援B型の利用者の働く場作りの検討、準備	新規事業準備委員会立上げ	新規事業に向けた職員研修と利用者のアセスメント	新規事業の立ち上げ	JSよど
	第1よどグループホームの建設と開設準備	第1グループホーム開始	第2グループホームの開設準備と開設		JSよど
	コロッセ等の製造・販売の強化 コンサルの助言を受け具体的な収益目標の	毎年度収益目標を挙げ、具体的に動く			JSよど
	Jおおさか第三拠点の開設に向けた準備(主に作業内容の検討と連携先企業の新規開拓)			Jおおさか第三拠点の開設	JJおおさか
	働くテカラPROJECTの更なる深化(「就活のススム」「就活のハジメ」のプログラム内容の充実、インターンシップ受入れの拡充、大学との連携強化等)				JJおおさか
利用者満足度調査の実施(毎年、継続的に実施していく)				広域特化会議	
就職者のひとり暮らしに向けた支援の創造 JJOBの会の運営スタイルを就職者中心運営として確立				JJおおさか	
② 人権を守る砦	関係機関との連携強化			広域特化会議	
	「発達障害者支援センター事業」の継続 (発達障害の特性理解のための啓発・個別のケース対応・府と連携しての委託事業の実施)			アクトおおさか	
	Jおおさかにおける人権をメインに考えた行動指針の検討と策定			JJおおさか行動指針の定着化	JJおおさか
③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織	組織ラインと役割の明確化(広域のため)			児童発達支援部	
	これまでアクトおおさかが培ってきた発達障害に関する相談支援のノウハウを、法人内に広げて行く (他所属の研修受け入れを今後も継続していく)			アクトおおさか	
	総合支援センター内における人材シェアの仕組みを検討しモデル実施する (センター内のコーディネーターやSVの促進)			専門性を高める研修への参加	広域特化会議

④ 地域 の 必要 と され る 人 た ち か	市町村委託による通所支援事業所、保育所などの訪問の試行 大阪府・各市町教育委員会委託による教職員等に向けたコンサルや研修の実施		児童発達支援部
	wish:相談支援専門員の支援スキルの強化(一般相談と計画相談の負担を配置し、機能整理を図る)		児童発達支援部
	地域に開かれた事業所をめざし、地域の方々に 来て頂けるイベントを再検討するための委員会 を設置する	地域の皆様に事業所の周知と交流を目指しジョブサイトよどとジェイ・ブランチよど共 催の イベントを開催する	JSよど
	ASDのある人の就労支援勉強会の定期開催(年1回)		JJおおさか
	大阪学院大学、大阪保健医療大学等への定期的なコンサルテーション(SV)		JJおおさか
	大阪発達障がい総合支援センターで発達障がい に特化した啓発イベントの実施を検討する	啓発イベントの実施	広域特化会議
⑤ 健全 な 財 務 基 盤 の 構 築	JJおおさか第3拠点開設に伴う増 収		JJおおさか
	外部でのコンサルテーションや研修講師等、中堅職員を中心とした収入増加を目指した外部活動の実施と拡充		広域特化会議
	ジョブサイトよどの定員数を 28名→30名にする		JSよど